

平成22年第11回福岡県教育委員会会議（臨時会）会議録

1 開催日時

平成22年5月27日（木）13時00分から13時52分まで

2 場所

福岡県庁4階 教育委員会会議室

3 出席委員

清原雅彦、久留百合子、住吉徳彦、太田浩二、二子石竜子
杉光誠（教育長）

4 欠席委員

なし

5 出席事務局職員

教育次長 荒巻俊彦、理事 中嶋利昭、教育企画部長 清田嘉治、
教育振興部長 森下博輝、総務課長 西牟田龍治、教職員課長 川添弘人

6 会議

13時00分、清原委員長が開会を宣言し、本日の議題について非公開発議の有無の確認を行った。

協議及び第27号議案「県費負担教職員の人事について」は、二子石委員から、人事に関する案件のため非公開とする発議があり、直ちに採決され、出席委員の3分の2以上の賛成をもって非公開と決定された。

その他の議案については、非公開の発議なく公開と決定された。

（1）報告

- ・平成23年度教員採用試験の実施について

川添教職員課長から、平成23年度福岡県公立学校教員採用見込数及び教育採用候補者選考試験の概要等について説明があった。

次いで審議が行われ、清原委員長から、応募資格に国籍条項はあるのかとの質問があった。これに対し、川添教職員課長から、国籍条項は以前に廃止しており、日本国籍を有しない者が採用された場合は、期限を付さない常勤講師として採用する旨の説明があった。

また、久留委員から、小学校、中学校の1学級あたりの平均的な人数は何人くらいなのか、また平成23年度から小学校での英語教育が必修

化されることに伴い、採用にあたって、例えば英語能力を重視するなど、何らかの対応等をとる考えはあるのかとの質問があった。これに対し、川添教職員課長から、1学級あたりの平均的な人数は小学校で約30人、中学校で約32人程度であり、また小学校の英語教育に対する対応については、平成16年度の採用試験から英検3級程度以上の簡単な英会話の実技を実施している旨の説明があった。

また、住吉委員から、来年度の再任用教員の見込数について質問があった。これに対し、川添教職員課長から、これまでの実績を踏まえて、小学校で14人、中学校で11人、高校で22人を見込んでいるとの説明があった。

また、同じく住吉委員から、昨年度から試験の正答や設問毎の点数の公開等、採用試験についてはいろいろと改善してきているところだが、これらの改善策について、実施後どのように評価しているのか、また今後何か改善の予定等はあるのかとの質問があった。これに対し、川添教職員課長から、昨年度の改善は一連の大分県の教員採用事件を受けて、試験の透明性、公平性を高めるため、問題用紙の持ち帰りを認めるとともに、正答及び各問の点数を公開することにより、自己採点が可能となるように改善したものであり、この改善により、一定の効果があつたと評価しており、また今後も採用試験の透明性、公平性をより一層高める改善策があれば検討していくが、当面は昨年度からの改善を継続して実施していく旨の説明があった。

また、二子石委員から、昨年度の採用試験の倍率について質問があった。これに対し、川添教職員課長から、小学校が8.3倍、中学校、高校は教科によって異なるが、合計で中学校が15.6倍、高校が23.3倍となっているとの説明があった。

また、太田委員から、現職教員の受験者については、一般受験者とは別の採用枠を設けているのかとの質問があった。これに対し、川添教職員課長から、他県等の現職の教員や過去に政令市立を除く県内の公立学校で一定期間以上の講師経験のある者、前年度の第一次試験合格者で、前年度受験した試験区分・教科・科目と同一の試験を受験する者については、教職教養試験を免除するなどの特例措置を設けてはいるが、特に別枠は設けていないとの説明があった。

また、関連して二子石委員から、現職教員の受験者については、選考にあたって、現在の職場での勤務評価等は考慮するのかとの質問があった。これに対し、川添教職員課長から、特に考慮はしないとの説明があった。

公開審議はここまでとされ、清原委員長から傍聴人に対して退出が求められた。以後非公開にて審議を行う。

(2) 協議

- ・ 県費負担教職員の人事について

川添教職員課長から、県費負担教職員の体罰行為について説明があった。

次いで審議が行われ、このことについては、議案として審議することとなった。

(3) 議事

- ・ 第27号議案 県費負担教職員の人事について

川添教職員課長から、県費負担教職員による信用失墜行為に対し、懲戒の必要がある旨の説明があった。

次いで審議が行われ、第27号議案は原案どおり可決された。

清原委員長が閉会を宣言し、13時52分閉会した。